

未来を拓く！プログラミング体験で子どもたちに自信と希望を！

○エントリー団体

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
北上笑いのたね事業所

○コラボメンバー(役割分担)

YumePro/iTeen 北上校
：企画立案、プログラミング講師



○事業への思い・解決したい課題

文部科学省の最新の調査によると、昨年度、不登校の状態にある小中学生は 34 万人を超え、11 年連続で増加し過去最多となりました。特に小学生は 10 年前の 5 倍、中学生は 2.2 倍に増加し、子どもたちが安心して学びの場に参加できる環境が必要とされています。加えて、高校生も不登校が増加しており、3 年連続で増えた結果、6 万 8,770 人に達しました。

デジタル技術が進展する現代において、こうした子どもたちが社会で生き抜くためには、創造力と問題解決力、そしてデジタルリテラシーが必要不可欠です。不登校や引きこもりに悩む子どもたちにとって、従来の学校以外の場で自分を表現し、自信を持つことは大きな課題です。

北上笑いのたね事業所と YumePro/iTeen 北上校は、プログラミングを通じて「自分にもできるんだ！」という自信と「未来に挑戦する気持ち」を育むことを目指しています。この取り組みは、単なる技術教育にとどまらず、子どもたちが自らの力で新しい世界へ一歩を踏み出す支援を行うものです。地域に根ざした協働で、不登校や引きこもりといった課題に立ち向かい、子どもたちが生き生きと輝ける未来を創造します。

○コラボの経緯

北上笑いのたね事業所は、不登校や引きこもりの子どもたちに対して居場所とサポートを提供しており、彼らが安心して学びや社会とつながる機会を持てるよう支援しています。一方、YumePro/iTeen 北上校は、地域の子どもたちに向けてプログラミング教育を提供し、自信と創造力を育む活動を行っています。こうしたビジョンの一致がきっかけとなり、両者が手を取り合うことで「学び」と「安心できる居場所」を同時に提供する協働が実現しました。

○具体的な取り組み内容

11 月 2 日に「小中学生向けプログラミング体験会」を開催しました。テーマは「プログラミングを使って迷路を脱出しよう！」で、教育版マイクラフトを活用し、子どもたちがゲーム感覚でプログラミングを学べる内容となっています。YumePro/iTeen 北上校の佐藤夢斗さんが講師を務め、プログラミングの基本的な概念から始め、実際にマイクラフト上でキャラクターを動かす体験を提供しました。北上笑いのたね事業所は、イベントの会場提供や地域の子どもたちへの周知を行い、安心して参加できる環境づくりに貢献しました。

○コラボの効果

通常のプログラミング教室では届きにくい不登校や引きこもりの子どもたちにもアプローチできました。また、北上笑いのたね事業所が提供する温かい雰囲気の中で、子どもたちは安心して新しい挑戦を楽しむことができました。YumePro/iTeen 北上校だけでは難しかった地域への広報活動や不登校の子どものサポートが実現し、参加した子どもたちからは「楽しかった」「もっとやりたい」というポジティブな反応が得られました。

○今後の展開

今後は、プログラミング教育を通じてさらに多くの子どもたちに自信と希望を届けるため、継続的な体験会や定期的な教室の開催を検討しています。また、不登校や引きこもりの子どもたちが持つ課題により深く寄り添うため、YumePro/iTeen 北上校と北上笑いのたね事業所はお互いに協力し、メンタルケアの面でも支援できる仕組みを構築していく予定です。さらには、地域の他の団体や教育機関とも連携し、子どもたちが社会で活躍できる場を広げていくことを目指します。